

事後評価シート

【評価年月】 平成15年4月

【主管課・室】 水環境部地下水・地盤環境室

【評価責任者】 地下水・地盤環境室長 由田秀人

施策名、施策の概要及び予算額

施 策 名	- 5 地盤環境の保全
施策の概要	<p>地盤沈下の防止を図るため、工業用水法、建築物用地下水の採取の規制に関する法律を施行するとともに、関東平野北部等では閣議決定により地盤沈下防止等対策要綱を策定し、地下水採取目標量の設定、代替水源の確保等総合的な対策を推進する。また、全国の地盤沈下の状況を把握するために地盤沈下の監視測定を実施する。</p> <p>平成12年12月策定された新環境基本計画で、「戦略的プログラム」の一つに記述されている「環境保全上健全な水循環の確保」の構築に資するため、モデル流域でのリモートセンシング（衛星探査情報）による保水能力把握手法の開発、流域の保水浸透機能の強化などを進める。</p>
予 算 額	99,843千円（14年度予算）

目 標

目 標	<p>○地盤沈下を防止する。</p> <p>○環境保全上健全な水循環を確保する。</p>
達成状況	<p>地盤沈下については近年沈静化の傾向にあるものの、目標の達成には至っていない。</p> <p>環境保全上健全な水循環の確保については、雨水浸透柵の設置事業に対し補助を実施し、流域の涵養能力の向上を図る等の取組を行った。</p>

目標・指標、及び目標の達成状況

下位目標 1	<p>渇水時を含め地下水採取による地盤沈下の防止及び地下工事による地盤沈下を防止する。</p>				
指 標	H11年度	H12年度	H13年度	目標値	-
年間2cm以上の地盤沈下面積（km ² ）	6	6	28		0
（参考指標）地下水採取目標量（要綱地域の合計）	H11年度	H12年度	H13年度		-
	7.3	7.2	7.2		

(億 m3/年)				
達成状況	地盤沈下は近年沈静化の傾向にあるものの、12年度の6 km2から13年度は28km2へ増加しており、目標の達成には至っていない。			

下位目標 2	地下水位を回復し、湧水の復活を図るとともに適正な地下水位の維持に努める。				
指 標	H11年度	H12年度	H13年度	目標値	- 年度
(参考指標) 地下水位の 測定本数 (本)	458	477	468		
達成状況	雨水浸透柵を設置する4事業に対し補助を実施し、流域の涵養能力の向上を図った。				

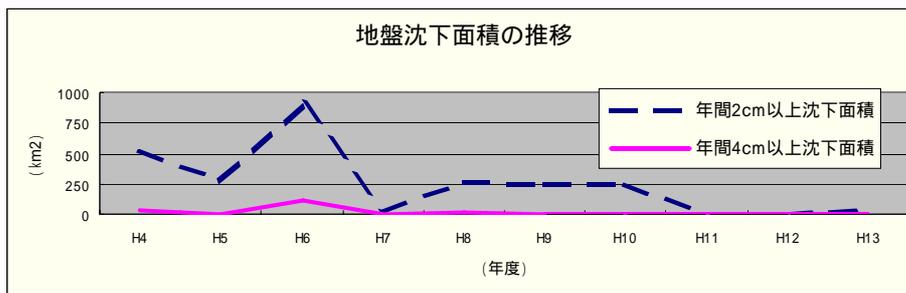
評価、及び今後の課題

評 価	<p>【必要性】(公益性、官民の役割分担等)</p> <p>依然として地盤沈下が進行している地域があり、また、湧水時の地下水揚水量の増加による潜在的な地盤沈下の危険性もある。このため、適正な地下水位の確保を図るとともに、全国の地盤沈下の状況を把握し、地盤沈下の防止を図る必要がある。</p> <p>環境保全上健全な水循環の構築に向けた取組は緒についたところ。都市化による不浸透域が拡大している地域等では、湧水の枯渇等地下水位が低くなっており、涵養能力の保全・向上など環境保全上健全な水循環の確保が必要である。</p> <p>【効率性】(効果とコストとの関係に関する分析等)</p> <p>モデル流域での保水能力把握手法の開発について民間のもつ最新の技術や知見を最大限活用することなどにより、施策の執行にあたっての効率性を追求している。</p> <p>【有効性】(達成された効果等)</p> <p>目標に対する総合的な評価</p> <p>一部地域の地盤沈下の進行はあるものの、長期的には地盤沈下は沈静化の方向にあり、地下水揚水規制等の施策効果が発現されている。</p> <p>雨水浸透柵の設置等による雨水浸透能力の向上等は見られるものの、今後、都市化による不浸透域が拡大している地域等では浸透機能の強化が必要である。さらに、ほぼ本来の地下水位に回復した地域では、利用を前提とした地下水の保全について検討していく必要がある。</p> <p>下位目標毎の評価</p>
-----	--

(下位目標1)

工業用水法及び建築物用地下水の採取の規制に関する法律の施行、地盤沈下防止等対策要綱に基づく対策の推進等の取組により地盤沈下は近年沈静化の傾向にあるものの、12年度の6km²から13年度は28km²へ増加しており、目標の達成には至っていない。

今後は、拡大が見込まれる大深度地下開発に対応するため、地下開発による環境影響の知見の集積が必要である。



(下位目標2)

雨水浸透柵を設置する4事業に対し補助を実施し、実施した流域の浸透能力が高まったが、湧水の復活には至っておらず、さらに浸透機能の強化を図る必要がある。

今後の課題	地下水に関する情報の把握 地下水管理手法の開発 地下開発による環境影響の知見の集積
-------	---

政策への反映の方向性

事業の改善・見直し	<p>地盤沈下(拡充)</p> <p>従来の地盤沈下(過剰揚水)に加え、地下開発による地盤沈下等の障害が見られることから地下開発による環境影響の知見の集積が必要。</p> <p>水循環(見直し)</p> <p>これまで雨水浸透柵の設置による浸透機能の強化、モデル流域でのリモートセンシング(衛星探査情報)による保水能力把握手法開発に向けての知見の集積等を実施してきており、これらも踏まえ湧水の復活を目的とした井の頭公園など身近な小流域をモデル流域とした環境保全上健全な水循環の構築を図るとともに、地下水位の回復が見られる地域での地下水管理に取り組む必要がある。</p>
現行のまま継続	

【別紙】

事務事業シート

施策名	- 5 地盤環境の保全	
事務事業名 (関連下位目標番号)	事業の概要	主な関連予算事項等 (14年度予算)
ア．地盤沈下対策の 推進 (下位目標1)	<p>地盤沈下の進行がみられる地域等における水準測量及び地下水位の測定等に補助を行う。</p> <p>地盤沈下防止等対策要綱の実施状況、問題点等の把握を行うとともに、湧水時の地盤沈下、年間目標採取量の設定等について検討を行う。</p>	<p>地盤沈下監視測定費補助 (37百万)</p> <p>濃尾平野、筑後・佐賀平野地盤沈下防止等対策調査 (15百万)</p>
イ．環境保全上健全な水循環の確保に資する施策の推進 (下位目標2)	<p>地盤沈下の進行がみられる地域等において、市町村が実施する雨水浸透柵等の設置事業に対し補助を行う。</p> <p>モデル地域での保水能力を把握するリモートセンシング技術の構築を通じ、リモートセンシングによる保水能力把握手法開発に向けての知見の集積を行う。</p>	<p>水循環再生施設整備費補助 (40百万)</p> <p>地下水水循環計画策定等調査 (20百万)</p>

【別紙】 政策効果把握の手法及び関連指標

(施策名) - 5 地盤環境の保全 (下位目標 1)	単位	現況値 (時点)	目標値 (目標年次)		
(指標名) 年間 2 cm 以上の地盤沈下面積	km ²	28 (平成13年度)	0 (-)		
指標の解説 (指標の算定方法)					
評価に用いた資料 (インターネットの公開・非公開の別) 平成13年度全国の地盤沈下の概況 (公開)	関連する事務事業名 ・地盤沈下対策の推進				
目標値設定の根拠、考え方 湧水時を除き沈静化 (平成13年、4 cm 以上沈下した地域はゼロ) しつつあり、目安として 2 cm 以上の沈下面積を目標値とする。					
特記事項 (外部要因の影響など) -					
目標値の実績値 (表・グラフにより、過去 5 年間の目標値の推移を記載)					
	H 9	H 10	H 11	H 12	H 13
年間 2 cm 以上の沈下面積 (km ³)	244	250	6	6	28

(施策名) - 5 地盤環境の保全 (下位目標 1)	単位	現況値 (時点)	目標値 (目標年次)
(指標名) 地下水採取目標量 (要綱地域の合計)	(億 m ³ /年)	7.2 (平成13年度)	- (-)
指標の解説 (指標の算定方法)			
評価に用いた資料 (インターネットの公開・非公開の別) 地盤沈下防止等対策要綱推進協議会資料 (非公開)	関連する事務事業名 ・地盤沈下対策の推進		
目標値設定の根拠、考え方 -			
特記事項 (外部要因の影響など) -			
目標値の実績値			
	H 1 1	H 1 2	H 1 3
地下水採取量 (要綱地域の合計) (億 m ³ /年)	7 . 3	7 . 2	7 . 2

(施策名) - 5 地盤環境の保全 (下位目標2)	単位	現況値(時点)	目標値(目標年次)	
(指標名) 地下水位の測定件数	本	492 (平成14年度)	- (-)	
指標の解説(指標の算定方法)				
評価に用いた資料(インターネットの公開・非公開の別) 平成14年度環境監視調査等補助金要望書 (非公開)	関連する事務事業名 ・環境保全上健全な水循環の確保に資する施策の推進			
目標値設定の根拠、考え方 -				
特記事項 (外部要因の影響など) -				
目標値の実績値				
	H 1 1	H 1 2	H 1 3	H 1 4
測定件数(本)	4 5 8	4 7 7	4 6 8	4 9 2